

**京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書**

平成21年3月 23日

財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局 人間・環境学研究所

職 名 教授

氏 名 山 田 孝 子

事業区分	平成20年度・学術研究書刊行助成		
刊行書名	ラダック - 西チベットにおける病いと治療の民族誌		
著者(編著者)名	山 田 孝 子 (奥付のとおり記入)		
発行者名	京都大学学術出版会		
発行年月日	平成 21 年 3 月 25 日		
成果の概要	タイトルは「成果の概要/報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 無 有(刊行書1冊)		
会計報告	直接出版費 (内訳は下記のとおり)	2,449,482円	
	収入見込額 (著者負担・売上見込)	1,249,482円	
	当財団からの助成額	1,200,000円	
	直接出版費の内訳		
	費 目	金 額 (円)	備 考
	組版代	1,026,000	
	製版代	410,200	
	刷版代	195,200	
	印刷代	246,000	
用紙代	125,440		
製本代	330,000		
消費税	116,642		
合 計	2,449,482		

成果の概要（学術研究書刊行助成） / 山田孝子

「学術研究書刊行助成」を受け、平成 21 年 3 月 25 日に「ラダック - 西チベットにおける病いと治療の民族誌」を刊行した。本書は、西チベットとも呼ばれるインド国ジャム・カシミール州ラダック地方における病いと治療を、長期間にわたる人類学的フィールドワークをもとに、一つの民族誌として描いたものである。

ラダック地方は、トランスヒマラヤ山系の高標高地帯に位置し、周囲を 5000 メートル近い峠に囲まれた地域であるが、古くから中央アジアとインドのカシミール地方間の交易路の要衝地として栄え、19 世紀半ばまでラダック王国が成立してきた歴史をもつ。この地域の住民ラダッキは、チベット仏教を信仰し、農耕と牧畜、交易を生態的基盤としてきたチベット系民族であり、この地域における病いと治療は、シャマニズム、アムチの医学、チベット仏教の相互の連繋によって担われてきたという伝統がある。しかも、伝統医学にみる健康観は、ラダック地方の環境条件を最大限に活用した人々の生態にみごとに適合した体系となっている。このため、本書は、チベット語系住民であるラダッキの病いと治療を、宗教と生態との連繋という統合的視点から描くことを試みたものである。

ラダック地方において実施したフィールドワークは、1980 年代の数回および 2003 年と、延べ約 16 ヶ月間にわたるものであるが、1983 年の最初の調査から最後の調査までには 20 年という長い時間の経過がある。このため、本書は 1980 年代のラダッキの伝統文化を、とくに病いと治療に焦点をあて、実証的民族誌として描くものであると同時に、近年の観光化、商品経済の浸透といった現代化が進む中での伝統とグローバル化との葛藤など、伝統文化が直面する文化動態を描くことを試みたものである。

以上、本書は日本において実証的な民族誌が欠けていた西チベットのラダック地方の伝統文化について、一つの民族誌として広く周知させるものである。と同時に、本書で示したラダッキのシャマニズムの現代化の中での動態は、世界各地の先住民社会で起きている、現代化の中での伝統文化の連続性という問題への理論的展望を提示する範例となるものである。

最後に、本書は以下の目次構成をとるものである。

序章

第 1 部 ラダックの歴史と人々の暮らし

第 1 章 西チベットの自然・歴史とラダック王国

1. 西チベットの自然と人々 / 2. 西チベットの歴史と宗教的背景 / 3. 交易に支えられたラダック王国 / 4. 王国期の統治体系

第 2 章 村人の伝統的社会生活

1. 伝統的社会集団概念 / 2. 婚姻規定と結婚式 / 3. 仏教徒にみる日常的宗教行為

第 3 章 農耕と牧畜からなる生態

1. ムギ類を主とする灌漑農耕 / 2. 作物の種類と品種 / 3. 食材を彩る果樹の栽培 / 4. 伝統的牧畜

第4章 伝統的食文化

1. 主要栽培作物の加工・調理 / 2. 動物性食品の利用 - 乳製品と肉類 / 3. 日常的な食事と特別な料理 / 4. 伝統的慣習と特別料理 - 事例から / 5. ラダックにおける食物観

第5章 インド独立後の現代化と政治的・宗教的・文化的葛藤

1. インド独立後の社会制度改革 / 2. 政府による地域開発、観光化、そして経済格差の拡大 / 3. 宗教的共存から宗教的対立の顕在化へ / 4. 1989年の暴力的衝突の展開 / 5. 指定部族地位の獲得とラダック自治山麓開発評議会の成立 / 6. 解消されない仏教徒の不満 / 7. 宗教の共存に向けての取り組み / 8. 盛んになる NGO 活動 / 9. 開発をめぐる意見の対立

第2部 ラダックにおける病いと治療

第6章 村人にとっての病い

1. 病いと村人の信仰 / 2. 超自然的病因の判定 / 3. 『パルダンラモの占い書』が語る病因論 / 4. 病いの多元的理解

第7章 アムチの医学理論 - 病因論、診断法、薬物理論

1. チベット医学の歴史的背景 / 2. アムチの病因論と治療の理念 / 3. 病いの診断 / 4. 病いの分類 / 5. 薬物理論

第7章 アムチの治療実践

1. アムチへの道 / 2. レーのアムチにみる病いの治療 / 3. 憑霊の病いを治療する村のアムチ / 4. アムチが保持する薬物知識 / 5. アムチの医学にみる健康観

第8章 シャマンになるとは

1. 病いの経験 / 2. アユ・ラモの語る病いの経験と修業 / 3. シャマン候補者としての認証と修業 / 4. ラダックにおけるシャマン化の過程

第9章 シャマンの儀礼的行為

1. シャマンの道具類と儀礼の場 / 2. 治療儀礼の手順 / 3. シャマンのイニシエーション (ラポック儀礼) / 4. シャマンの異言(1): 身体的に不調な患者との対話 / 5. シャマンの異言(2): 霊による病いの患者 / 6. シャマンの儀礼的行為と病因論の再生産

第11章 現代化の中で生きるシャマン

1. 実践され続けるシャマニズム / 2. 2003年に会ったラモ DT / 3. シャマンの儀礼的行為にみる変化 / 4. 憑依する神々とその変容 / 5. 人々はシャマンに何を求めてきたのか / 6. 依頼者・内容にみる変容 / 7. 境界を越えるシャマニズム

終章

引用文献 / 索引 / あとがき